

## 平成 25 年度第 2 回総合図書館運営審議会議事録

- 1 日 時 平成 25 年 7 月 10 日(水) 午前 10 時 00 分～
- 2 場 所 福岡市総合図書館 3 階第 2 会議室
- 3 出席者 委員：高橋 昇、井上 秀明、渡邊 由紀子、松田 瑞恵、甲斐 景子、  
八尋 理恵、野田 真由美、大野 まり子、田坂 大藏、小林 晶子、  
宮本 謙吾（計 13 名）  
図書館：久池井館長、北崎部長、大串運営課長、矢野図書サービス課長、  
西島文学・文書課長 他  
傍聴者：2 名

### 4 議事録

**事務局**：本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。  
ただいまより、平成 25 年度第 2 回総合図書館運営審議会を開催いたします。  
今現在 11 名の委員の方にご出席いただいております、審議会として成立しています。

〈館長挨拶〉

**会 長**：事務局から前回の発言趣旨報告をお願いします。

**事務局**：前回発言趣旨を報告。

**会 長**：今後のスケジュールについて事務局からご説明をお願いします。

**事務局**：スケジュールについて事務局から説明

### 議題 1 新ビジョンについて協議(図書サービスについて)

～資料収集と蔵書状況(文書資料・映像資料含む)、レファレン

スサービス、児童・青少年サービス、障がい者サービス～

**会 長**：資料について事務局から説明をお願いいたします。

**事務局**：資料について説明

**会 長**：ありがとうございます。それでは、協議を進めたいと思います。

委員皆様からのご意見をいただきたいと思います。

委員：館内・館外を問わず図書館と周辺とのサービス、ネットワークの構築、学校図書館への支援。2. のレファレンスサービスの強化・充実では、分館と、このバックアップ体制が確立出来ていくのか、事務局にお伺いしたい。

委員：5 多様な学習機会の提供について、(1) は成人サービスや高齢者サービスにあたると思うが、是非、ここをしっかりと支援していただきたい。それは、大人向けのサービスは生涯学習とかなり密接に関係していると思う。生涯学習というのは図書館が担うべき役割だと思うので、講演会などではなく、読書会などかを考えていただきたいと思います。

委員：視点1 をみると大変幅広い範囲となっている。博物館でも市民がいったい何を考えているのかとか、我々が今、集めている資料収集自体がどれほど客観性を持つのだとか、常に気になっていて、収集委員会の先生方にも相談しています。館内の意見とか、館外の意見もさることながら、館外でどういう風に見られているのかとか、どういう風に対応していくべきなのかを気にしています。だから、これだけ視点1 でサービスを並べられると、例えば一点だけでも絞り出すと、一般図書の収集のことだけでも、どういう風に体系的に、あるいは公共図書館としての役割とは、当然、ここまでは、そいてそれに関して福岡市の図書館としてどうあるべきかという、役割の再評価というか、評価をどういう風な形でやっているのか、やって行こうとしているのか。

物の収集には図書だけではないのですが、同時に継続性が必要です。この継続性をだれが図書館ではどういう部門で継続してやっているのか、いろいろ専門職がいると言われると思うが、その専門職というのが図書館ではどういう扱いになるのか、専門職のグレードアップというのは緊急性を要するものだと思いますので、気に掛かっております。

図書館には行政職、専門職、嘱託員が勤務しているとのことですが、専門性、継続性、統一性の保証はどのように考えられているのか、気に掛かっております。

委員：4. の情報化の進展に対応したサービスの向上の(4) 分館を中心に、学校・公民館・文庫等との地域ネットワーク強化に努め、地域での読書活動推進を図っていくとありますが、とても抽象的であり、分館にどれほどことができるだろうかと考えております。こうことをやれるのは総合図書館でしかできないことだと思います。

委員：背振に科学技術センターができるかもしれないと聞きましたので、福岡市南部に科学技術の資料を集めた分館を設置してはいかがでしょうかと思います。

委員：国立国会図書館のようにレファレンス事例の公開は行っているのでしょうか。

事務局：行っております。

委員：学校行事で土曜日か日曜日に出校した場合は翌月曜日が代休となるが、図書館など公共施設が月曜休館で利用できない。休館日をずらすなどの検討を行うべきと考え

ます。

委員：休館日について、福岡市の図書館は月に5日間の休館があり、月の6分の1が休館している。福岡市内どこも開いていない。ということは図書館サービスが6分の1マヒした状態になっている日があるということだと思う。月に5日間休みことになると、休み無しというのは難しいと思うけど、他の政令市の休館日のように月1回の休み所はマヒする日が30分の1しかないということです。設備的に開いてなかったらサービスを届けようもない、サービスもしようがないわけだから、そういう日が5日間もあるということは非常に問題だと思う。

委員：職員の資質向上はどこまで。イベントの広報の強化

会長：ひととおりのご意見をいただきましたが、諮問の協議を行っている段階ですので、ご意見として伺っておきます。他にご意見はございませんか。

委員：市民とは赤ん坊から高齢者までを指すのか。利用者層を絞ってサービスを行わなければならない。

会長：公共図書館は全ての利用者に関わったサービスを行わなければならないと思います。年代を絞ったサービスは批判が出ると思います。

委員：視点1は市民全体を対象にし、視点2では子どもにはさらに手厚くという意味でしょうか。

会長：図書館に配属された事務職員はほとんど司書資格を持っていない。さらに3～5年で異動になる。図書館に配属される市の職員は、司書資格を持った専門の職員が配属され、図書館に長く勤務できるよう要望したい。実施計画には記載して欲しい。

委員：レファレンスという言葉は馴染みが薄い。伊万里図書館では相談窓口と書いてありました。子どもたちにもわかりやすい言葉にして欲しい。総合図書館のこども図書館ではレファレンスという言葉は使われていない。図書館で調べものをするという習慣がどの世代でも少ない。分館でレファレンスを強化するのは、スペースの狭さや人員が少ないことから、改善は難しいと思います。分館は学習室がないことも問題だと思います。

委員：高齢化を見越して、お年寄りが来やすい、親しみやすい図書館にするべきだと思います。交通の便が悪いため、何か福岡市図書館独自の魅力が必要だと思います。

会長：公民館は小学校区毎に一館ありますので、その図書室を強化することも必要だと思います。

委員：公民館も一つの方法だと思います。地元があればもっといいのですが、ほとんどの高齢者は総合図書館まで来ることが可能だと思います。

会長：分館は人員が不足しているので、ボランティアを増やし対応すべきだと思います。

委員：文字サイズや案内掲示など高齢者に優しい図書館像を目指して欲しいと思います。

委員：図書館サービスの方向性として、市民一人ひとりに本を届けることができるということを意識して欲しい。県立図書館のホームページでは文字の大きさを小中大と変

えることができる。高齢者や障がい者にきちんと伝える、届けるという意識があれば、それなりに工夫も生まれる。理念や視点の中に書き加えて欲しい。レファレンスという言葉もわかりやすくすれば利用者も増えると思います。

事務局：福岡市総合図書館ホームページでも文字サイズは小中大の機能はあります。(左上)

委員：福岡市総合図書館ホームページは見にくいですね。

委員：福岡市は月曜日と月末に全館一斉に休館日となっているため、休館日を一館だけでもずらして欲しい。諫早市は月曜日に一館だけ開館していました。福岡市は図書館利用が少ない地域がありますので、移動図書館車の運行も検討して欲しい。

委員：公民館などの地域貸出文庫の増設と受入体制の充実の充実とありますが、公民館の図書ボランティアは高齢化により閉鎖せざるを得ない所がありますので、公民館の図書ボランティアと連携する必要があると思います。

委員：福岡市子ども読書活動推進計画について、実績を出し、評価をする必要があると思います。策定する際に予算が少なかったため、マンパワー不足であった。図書館が中枢となり、ボランティアを活用して欲しい。本の修理研修会を行い、ボランティアは増えたが、受入側、場所に定員があり、体制が整っていないのもったいないと思います。団体貸出は大変な業務であるため、そこにボランティアを活用したらいかがでしょうか。総合図書館にはボランティアに来てもらい、公民館の図書室には職員を派遣し、指導をして欲しい。

委員：学校司書と図書館司書の交流の場を設け、連携し、成果を上げて欲しい。

委員：グループ学習を小学生の頃から行い、中学、高校と進学し、図書館の利用方法を身につけた、大学生や大人が育っている。現在、大学で問題になっているのは、グループ学習の場はあるが、人員が不足していることです。学校図書館支援センターについてご教示願います。

事務局：学校図書館を充実させる活動を行うための、物的、人的支援を行う拠点です。

一つの学校の図書館では全生徒に対する資料は不足しています。ではどう解消するかという事で学校同士、資料を共有します。でもそれだけではまだ不足しています。そのために公共図書館を利用するという事で、つまり物流と人的支援を総括するセンター的役割となります。

館長：学校図書館支援センターは、学校司書が全校に配置されていれば一番良いのですが、実情はそうではありません。福岡市としては司書がない学校にも支援をしたいと思っております。さらに物的・人的の他に情報面のサービスもあります。配置されている学校図書館では良い取り組みや参考になる点がありますが、蔵書構成など支援を受けたい項目もあります。直接学校に出向いて支援することや、ホームページ上で検索できることや、具体的な学習についてはこういった参考資料もありますというようなことがあります。学校も多忙ですので、拠点となる学校図書館支援センターが事前に集約して調べておけば、開かれた情報交換を行いスムーズな支

援ができると思います。

平成 18 年度にも城南区・金山小学校に三年間、学校図書館支援センターがあり、いろんな授業が行われ、その後一旦終了した事業でしたが、何らかの形で公共図書館と学校図書館を繋ぐといったセンター機能を持つ場が出来ないかという構想が検討されています。

委員：学校の実情についてお話ししたいと思います。各学校には図書館司書は配置されておりません。司書教諭が 1 人いますが、学級の担任も行っております。司書教諭の主な業務は学校図書館の考案や読書活動推進活動計画の提案などがあります。学校図書館の整備については、時間内では他の業務が多く、時間外での作業になっているのが実情です。各学年の代表などからチームを作り、お互い協力して日々読書活動推進に取り組んでいます。当校には、やっと今年度学校司書が配置されました。

小学校 2 校+中学校 2 校・計 4 校で一人が担当しています。

読書ボランティアや学校の司書が集まって情報交換したり勉強会がおこなわれています。そこに図書館の司書も参加していただければ、より良くなると思います。

こういったことを支援する場が学校図書館支援センターであり、今後具体的に記載していく中で、私も意見を出し、協力したいと思います。

総合図書館で図書の達人講座というのがありますが、参加するには親が連れて来なければならない。各市民センターの図書館に行くだけでも、ほとんどの児童は校区外ですので親が連れて行かなければならないので、図書の達人が学校に来て欲しい。図書館はただ資料を提供するだけでなく、図書館が持っているレファレンス機能など、いろんな図書館の機能を広めてほしい。

委員：時代のニーズに合わせて改革も必要ですが、図書館として守っていかなければならないものがあると思います。それは人材だと思います。図書館として機械的に資料を貸し出すだけでなく、本を人から人へ手渡す際にいろんな思いや共有できる部分を含めて本を手渡すということが子どもにとっても大きな役割を果たすと思います。ボランティアの育成も大事ですが、子どもに本を手渡したり、お母さんたちの相談に乗ることができる、プロと呼べる専門的な知識を持った司書の育成をお願いします。児童書の読書活動は、主に小学生が中心です。中学生以上の図書に触れない空白期間を埋める活動や働きかけの取組を期待します。また、読書ボランティアに関しては、形だけでなくその後に繋がるような活動であってほしい。

委員：専門的な知識を一般市民が気軽に利用できるよう、本を利用するのは当たり前だが、知識を利用できるようにしてほしい。出前講座で図書館の技能や知識を市民に提供することを積極的に取り組んでほしいと思います。図書館に人が行くのではなく、図書館が動くといったような視点を持つことが大切だと思います。出前講座的に広く市民に提供するというのを、サービスの融通性という観点からも取り組んでほしい。

学校図書が充実すれば、反比例して地域文庫は衰退するようです。地域文庫を支援すると記載されているが、地域文庫がたくさんあり、支援するだけの魅力があるというふうに思われがちですが、活発に活動されている地域文庫もあります。高齢化もあり少人数でおこなっているのが現状です。ボランティアを育成する講座も実施しているので、ボランティア募集というより、常にボランティアが育成されていて、その延長線上に文庫であったり学校であったりと、場所は変わっても読書ボランティアとしての基本的な共通の知識・教育として育成をしていく事が大切なのではと思います。これを総合図書館が担ってくれることが望ましいと思います。ボランティアは募集する時代ではなく育成する時代だと思います。

委員：学校図書館とのつながりで支援センターの構想があるということですが、構想を行うことはとても良いことだと思いますが、かなり長期的なイメージで人的資源をどうするのか、現在の図書館の体制の中でどう位置づけられているのか、一般・専門職を含めて話をしておいてほしい。

また、博物館でも出前講座を行っているが、内容、話のレベルを保つのが大変です。これはボランティアではなく子どもたちの対応に長けている学校の先生のOBの方が行っております。学校図書館や地域や校区などレベルの違うところに出前講座を行うならば、事前に館内で時間をかけて協議をして対処して欲しいと思います。

委員：学校図書館支援センターに期待しております。ブックスタート事業がより充実したものにしたい。子どもプラザが14か所ある。1箇所のみ年に2回団体貸出を受けている。運営はNPOがほとんどですが、1か所だけ幼稚園が運営している。小さい時期から絵本に親しむ機会を作ってほしい。

少年科学文化会館では小学3年生が1日学習を行っております。総合図書館でも小学生を対象とした1日学習をぜひ実施してほしい。

委員：子供は年齢が低いというだけでなく、発達過程の中で言葉を習得したり人としての生活習慣を身に着けたり、多感に情報を吸収している。これらを平等に習得できることが大切だと思います。以前の学校支援センターは建物としてではなく司書の先生方の心の拠り所であったと聞いています。なくなって残念だと思いました。

会長：貴重なご意見をありがとうございました。視点1から3の予定でしたが、視点3につきましては次回に回します。今日の議題に関しましては終わりとさせていただきます。委員の皆様ありがとうございました。では進行を事務局にお返しします。

事務局：貴重なご意見をありがとうございました。質問がありました点について説明いたします。学校図書館支援センターにつきましては第2次子ども読書活動推進計画の中に記載されております。取り組みの重要施策1から4の中で2が学校、3が図書館となっております。2の学校につきましては総合図書館と連携して学校への団体貸出のシステムの整理という事と考えております。3番の図書館につきましては、学校図書館への団体貸出という形で掲げております。第2次子ども読書活動推進計

画は平成 23 年度よりスタートし 3 年目に入っております。教育委員会全体として、来年度の予算要求という形で準備を進めております。学校図書館支援センターは教育委員会全体の組織として人的配置を行います。

総合図書館の役割としては第 1 に物流関係と考えております。センターを総合図書館に置くことになるかもしれません。その資料を総合図書館に置くべきかなど、これから検討していくものと考えております。

出前講座は市の重要な取り組みです。今までは地域へと考えていたが、やはり学校への講座を開いていこうかと検討しております。将来的には学校図書館支援センターでの取り組みにしていけたらと考えております。

事務局：本日、要望や質問も多く出ましたが、協議していただく回ということで、事務局との一問一答という形は取っておりません。回答が必要な事項につきましては、次回以降に行いたいと思います。

委員：新ビジョン策定のスケジュール半年での準備は大丈夫なのか。

事務局：平成 26 年 9 月に新ビジョンが策定されても、27 年度の予算要求には間に合いませんので、28 年度の予算要求となります。できるだけ早く策定し、直近の予算要求及び実施したいと考えております。